人には誰しも、持って生まれた可能性がある。
代わりのきかない、その人だけの輝き方がある。
集団で存在感を発揮する人。人前でハツラツと活躍する人。
思いがけない才能を開花させ、その道を突き進む人。
100人いれば、100通りの幸せを後押しできること。
それこそが、成城学園の変わることのない使命です。

いつの時代も、私たちの中心にあるのは「人」。
幼稚園児から大学生までが集う、自然豊かなワンキャンパスも。
価値観の異なる子どもや学生が互いに心を通わせ、
ともに成長していく学びの舞台も。
すべては、時に喜び、笑い、涙する生身の人間同士が
触れ合いながら自らを見つめ、高めていくための礎なのです。

一人ひとりが、他の誰とも違う自分の魅力や天分に気づく。
そして、自分だからこそ切りひらくことのできる、
誇りある人生を歩んでいく。
私たち成城学園は、その大いなる出発点でありたい。

まず、教師の個性が
尊重されているのが、成城学園。

加藤陸雄　初等学校校長

伸びる個性の邪魔をしないこと。
私たちは「個性を引き出す」
なんて言い方、したくないんですよ。

加藤陸雄　初等学校校長

seijo_0627.indd 8-9 2016/06/28 0:28

「スペシャルな普通の学校」でありたい。
部活や行事を頑張ってもいいし、
ひたすら勉強や読書をしたっていい。
そのすべてに価値があると思うんです。

石井弘之　中学校高等学校校長

seijo_0627.indd 10-11 2016/06/28 0:28

運動会の後、子どもが私に言うんですよ。
「先生あいつすごいよ！ 本当に足が速いんだ」って。
自分のことじゃなくて、他人のことを
笑顔で褒められる。成城っ子らしいよね。

加藤隆雄　初等学校校長

「つながりの授業」で出会った
世代の違う子同士が、
卒業後も連絡を取り合ったり、
キャンパス内で挨拶する様子を
目にします。

加藤隆雄　初等学校校長

seijo_0627.indd 18-19 2016/06/28 0:28

子どものけんかは、
自分たちで解決させます。
相手の言い分を聞くのは大人でも
大変なこと。でも彼らは、そこで
争いの避け方を仲間と一緒に考え、
謝ることの意味を初めて学ぶのです。

前田秀和　幼稚園園長

毎日の密度が濃いから、
卒業式はやっぱり泣けます。
といっても、中学校でまた
すぐ会えるんですけどね（笑）

加藤陸雄　初等学校校長

seijo_0627.indd 22-23
2016/06/28 0:28

子どもは、本当によく観察します。
虫が好きな子はずっと地面とにらめっこ。
我々は、それを決して止めません。

前田秀和　幼稚園園長

正門前で交通事故があった時、とっさに
ケガ人の介抱をしたのが成城生でした。
日頃、命の大切さを学んでいるから、
人命に対する意識が人一倍強いのです。

石井弘之　中学校高等学校校長

seijo_0627.indd 28-29
2016/06/28 0:28

4

心情の教育

毎朝、園児たちの手を握って、
目を見つめるとわかるんです。
今日は元気ないな、とか
家で何かあったのかな、とか。

前田秀和　幼稚園園長

seijo_0627.indd 30-31

2016/06/28 0:28

初等学校には、職員室がありません。
教師の机は各教室にあります。
子どもと身近にいるからこそ、
見えてくるものがあるのです。

加藤陸雄　初等学校校長

seijo_0627.indd 32-33
2016/06/28 0:28

Seijo Episode 4

初等学校の花壇

初等学校3・4年生の教室前の花壇には、広場に行くための近道として通路が作られています。昔、花壇の花は子どもたちに踏み荒らされていたそうです。すると普通は「花壇に入るな」と立札を建てたり、花壇委員を作ってルールを守らせ、ルールを破った子に罰を与えたりします。でも、そんなことをしたくなかった初等学校は、花壇を横断する通路を作ったそうです。その結果…子どもたちは通路を通って広場に遊びに行くようになり、誰も花壇の花を踏まなくなりました。つまり彼らは「最短距離で遊び場に行きたかった」だけなのです。ルールを作るのではなく、仲間に見張りをさせるのでもなく、まず何より子どもたちの心を理解する。初等学校の『子どもを中心とした教育』のひとつのエピソードです。

seijo_0627.indd 32-33 2016/06/28 0:28

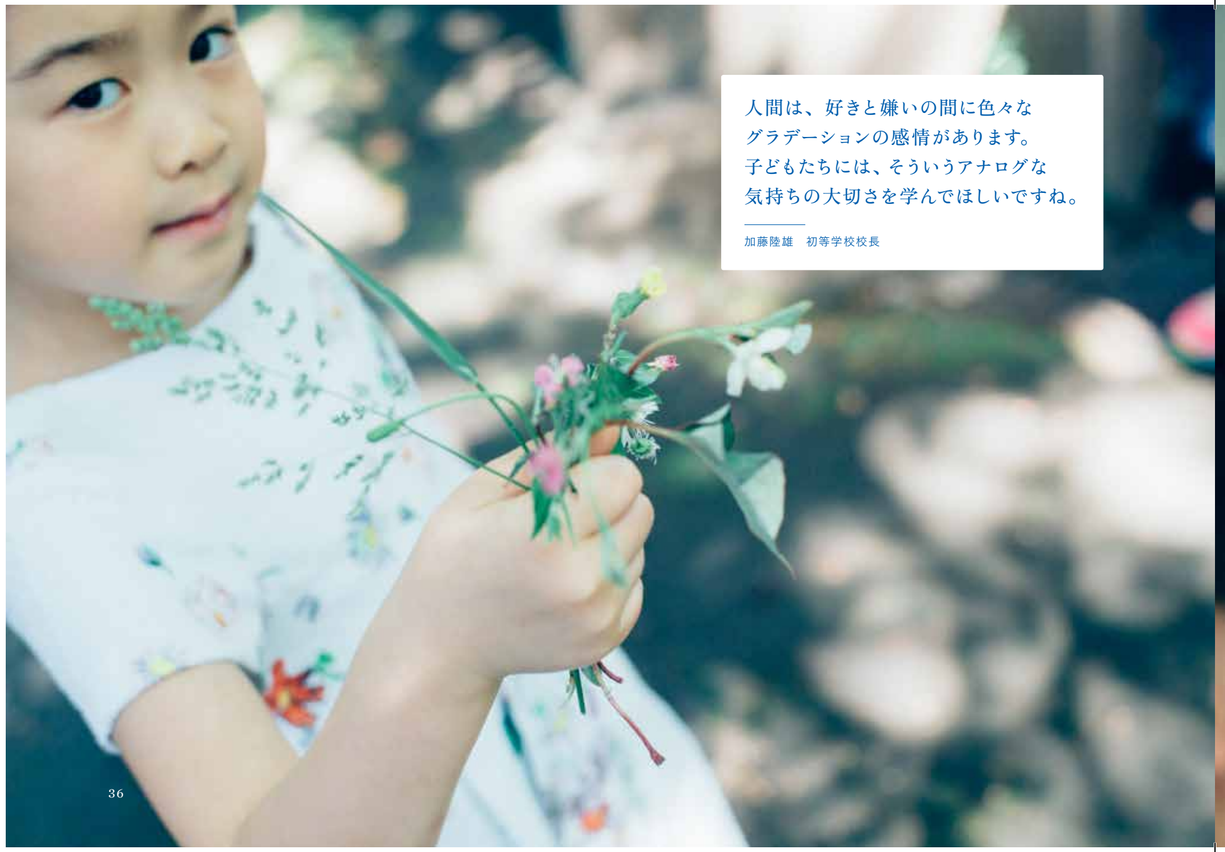
校長室にみんなが遊びに来るから、
すぐ子ども部屋になっちゃう。

加藤陸雄　初等学校校長

芸術や情操教育に多くの時間を割いて
いますから、豊かな感受性を持った
奥行きのある人間が多いのです。

前田秀和　幼稚園園長

seijo_0627.indd 34-35 2016/06/28 0:28



人間は、好きと嫌いの間に色々な
グラデーションの感情があります。
子どもたちには、そういうアナログな
気持ちの大切さを学んでほしいですね。

加藤陸雄　初等学校校長

努力が評価される環境があれば、
学生はもっと努力を積むでしょうし、
それがひいては自分の個性を磨く
ことにつながるはずです。

戸部順一　大学学長

seijo_0627.indd 36-37
2016/06/28 0:28

Seijo Episode 5

門のない正門

出会い、触れ合い、やがて巣立っていく。学生生活の入り口であり出口でもある正門は、成城学園が1925(大正14)年に現在の地に移転してきた当時も今も、同じ位置で登下校する子どもや学生たちを見守っています。また、正門でありながらも、「門」そのものを造らないのも変わらぬ伝統です。この地に根差し、成城の街とともに歩んできた学園だからこそ、地域に開かれた場でありたい。そして、風通しの良い自由な環境のもとで、一人ひとりが自分を磨き、自らの意志で社会へ羽ばたくための起点でありたい。成城学園のそんなひたむきな想いが、この正門には込められているのです。

1928(昭和3)年当時の正門

seijo_0627.indd 38-39 2016/06/28 0:28

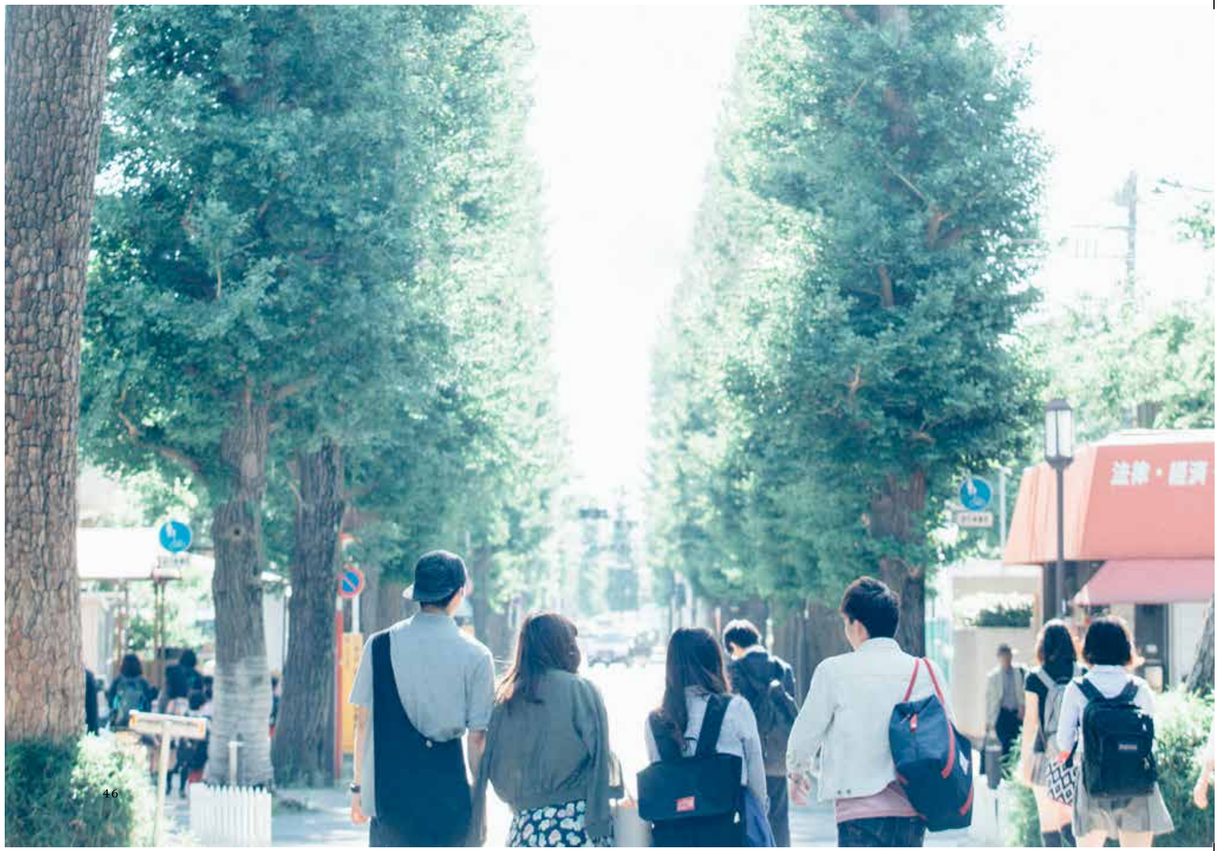
成城学園は、
幸せになる力を鍛える場所。

石井弘之　中学校高等学校校長

たとえ99人が「右」と言っても、
自分は「左」と言える人間であってほしい。

前田秀和　幼稚園園長

seijo_0627.indd 42-43
2016/06/28 0:29



自分に生まれたことを、誇れる人へ。

seijo_0627.indd 46-47
2016/06/28 0:29